

「2021七夕まつり」開催!

七夕に託した360余の願いごと

大北で「いのち」「平和」に関わる様々な活動を行つてゐる人たちが一堂に会し、それとの違いを認めあいながらつながることを目指してはじめた「七夕まつり」いのちと平和のフェスティバル in 大北」の今年の取り組み、

「2021 七夕まつり」を7月3日から7月7日に「池田町交流センターかえで」にて開催しました。

新型ウイルスの終息が見えない中、来年2022年こそ本来の「おまつり」を開催す



ることを願い「七夕かざり」を中心とした展示を行いました。

寄せられた「願いごと」は

のべ360余り。

ジエンダー問題、年金や医療費など、厳しい社会状況を反映したものが多かつた中、

「ほつ」とするのは子どもたちの言葉。

「パン屋さんになりますよう

い」「消防士になる!」……

素直でのびのびとしたこんな「願いごと」ができる社会を守るために「いのち」「平和」のつながりをこれからも広げていきたいと思います。

そして、来年の七夕まつりでは気持ちの良い芝生の広場でぜひお会いしましょう!

(いのちと平和フェスティバル 実行委員会事務局)

加藤俊

牛越邦夫

中島

第二回行財政改革推進委員会開催

第1回委員会の議論で委員会をスマースに運営するため、総務部会を設置することとなり、部会長に村端委員が選出されました。総務部会は1、「なぜ、池田町の財政逼迫がもたらされたか」2、「池田町行財政改革の基本と課題」が克明な資料と共に、20ページに亘る問題提起が

出されました。

しかし委員からの意見・質問はほとんどなく、会議は終了しました。

次回は7月29日「組織・機構の改善に関すること」で

す。委員会設置の基本である、財政討議を深めてほしいと痛切に感じました。

国連核兵器禁止条約



日本政府はなぜ批准しない

日本政府が、禁止条約に背

の元首脳、国防相、外相等者の共同書簡(昨年9月21日)

は、核兵器が安全保障を強化するという考えは危険で誤

りだと強調し、禁止条約が世

界の多数派に支持される「希望の光」であるとのべ、それ

への参加を各指導者に呼びかけました。

池田原水協

太田 勉

（60代女性）

核兵器禁止条約発効採択から4年の快挙

に」「ホームラン5本」「あ！ラップンツエルになりたい」「消防士になる！」……

ヨークの国連総会で核兵器禁止条約が採択されました。現在この条約に署名した国は86

カ国です。今年1月に批准し

た国が50カ国に達し、核兵器禁止条約が発効しました。7月にはセイシエルの批准があり55カ国が増えています。

条約発効後はじめてとなる核兵器廃絶国民平和大行進は、6月29日に小谷・白馬、30日大町・松川及び池田で行われました。

ヨークのみの行進となりました。

島サッカースタジアムでの試合観戦の折には会場での飲みも

の保護者に求めていたとの事で

学校連携観戦予定のこと

でした。ダラダラとした入場式が続き、やはり熱狂して歓迎する観客がいない式は盛り上がりませんでしたね。

入場した各国選手も座った

日本政府が、禁止条約に背

の元首脳、国防相、外相等者の共同書簡(昨年9月21日)

は、核兵器が安全保障を強化するという考えは危険で誤

りだと強調し、禁止条約が世界の多数派に支持される「希望の光」であるとのべ、それへの参加を各指導者に呼びかけました。

日本政府が、禁止条約に背の元首脳、国防相、外相等者の共同書簡(昨年9月21日)は、核兵器が安全保障を強化するという考えは危険で誤りだと強調し、禁止条約が世界の多数派に支持される「希望の光」であるとのべ、それへの参加を各指導者に呼びかけました。

日本政府はなぜ批准しない

日本政府が、禁止条約に背

の元首脳、国防相、外相等者の共同書簡(昨年9月21日)

は、核兵器が安全保障を強化するという考えは危険で誤

りだと強調し、禁止条約が世

界の多数派に支持される「希望の光」であるとのべ、それ

への参加を各指導者に呼びかけました。

池田原水協

太田 勉

（60代女性）

り激励のご挨拶をいただき、各団体の核廃絶の願いを込めたペナント取付、参加団体代表の決意表明・挨拶などで引継式を行いました。

その後宣伝カーで町内各所をまわり、日本政府に核兵器禁止条約の速やかな署名・批准を求めるなど、核兵器廃絶を訴えました。

日本政府が、禁止条約に背の元首脳、国防相、外相等者の共同書簡(昨年9月21日)は、核兵器が安全保障を強化するという考えは危険で誤りだと強調し、禁止条約が世界の多数派に支持される「希望の光」であるとのべ、それへの参加を各指導者に呼びかけました。

日本政府が、禁止条約に背の元首脳、国防相、外相等者の共同書簡(昨年9月21日)は、核兵器が安全保障を強化するという考えは危険で誤りだと強調し、禁止条約が世界の多数派に支持される「希望の光」であるとのべ、それへの参加を各指導者に呼びかけました。